

## 文献紹介

BSN新潟放送 製作

『イザベラ・バードが見た明治の新潟』

BSN新潟放送 2019年2月 非売品

本著作は、イザベラ・バード著・金坂清則訳注『完訳日本奥地紀行』第1巻および第2巻に基づいた小野沢裕子(フリー・アナウンサー)の朗読によるCD2枚組と金坂清則『解説書ー伝えたきメッセージ』と題されたブックレットからなる。その構成は以下の通りである。

### CD 1 (約78分)

- 00 前説
- 01 雲泥の差
- 02 安息の一日
- 03 新潟の宣教師
- 04 新聞での論争
- 05 医療伝道活動
- 06 新潟診療所
- 07 宣教師の試練
- 08 キリスト教会風の装飾
- 09 法話が評判の説教僧
- 10 存在の持続に対する嫌悪の情
- 11 最悪の天気
- 12 新潟のヨーロッパ風の市街
- 13 絵のように美しい町通り
- 14 お姫さま

### CD 2 (約79分)

- 00 前説
- 01 驚嘆に値する店屋の数々
- 02 女性のための文学
- 03 英国の学術書
- 04 「いんちき薬」
- 05 値段交渉のばかばかしさ
- 06 「ローズ歯磨き」
- 07 食べ物
- 08 大根 [沢庵]
- 09 さまざまな菓子
- 10 生け作り
- 11 取り合わせと薬味
- 12 遅々として進まぬ旅

### 13 「仏教への埋没」

解説書ー伝えたきメッセージ

はじめに

1. 朗読番組・CD誕生秘話
  2. 朗読番組とCDの意義およびCD制作の目的
  3. CDの構成
  4. 収載画像の紹介
- おわりに

『完訳日本奥地紀行』全4巻及び『新訳日本奥地紀行』などの翻訳、『ツイン・タイム・トラベラーイザベラ・バードの旅の世界』、『イザベラ・バードと日本の旅』及びその英訳である *Isabella Bird and Japan: A Reassessment* などについては既に詳細な書評や紹介があるので、朗読CDと解説ブックレットに絞っていきたい。

本CDは2018年4月から半年にわたり、BSN新潟放送にてラジオ朗読番組として放送された内容をまとめたものである。翻訳された旅行記が朗読番組となり、さらにはCD化まで至った奇縁は長年にわたる金坂氏の多面的な活動の賜であり、地理学者の社会関与の精華を示すといえる。

朗読番組では『完訳日本奥地紀行1』[第18報 川の旅]から『完訳日本奥地紀行2』[第22報 苦痛の種]の前半の範囲が使用されている。

ラジオという音声のみによるメディアということで、『完訳日本奥地紀行』の書籍で[ ]を使用してバードの原文の日本語訳を補ったり、訂正したりしていた箇所については、適宜、[ ]内の語を使用して朗読されている。

さらに、新潟学校の「百工化学科」のように漢字で見ると意味は想像できるが、音のみでは想起しがたい語について、漢字を一語ずつ音読して表記を説明している。「鱈權」など、音のみで漢字を想起することが必ずしも容易ではない語のうち、他語での置き換えが困難なものについては訳語のままとなっているが、「外国人遊歩区域」は「外国人が自由に移動できる区域」、「人口稠密地域」は「人口密集地域」と置き換えている。

このように聴き手がバードの旅行文を音声のみで理解し、風景を想起しやすくなるように、全体

を通して配慮がなされている。ただし、これらの対応は訳文全体からみると、微細な修正に過ぎない。朗読という形をとったことにより、翻訳文そのものの完成度の高さが改めて浮き彫りとなっている。滑らかな朗読の流れに乗ってイメージを膨らませてバードの旅を想起することにより、活字をひもといていたときには気づけなかった新しい魅力や発見に気づかされるのである。

さて、バードが、会津から陸路を使って日本海水運へと接続する要衝の川港であった津川へとたどり着いたのは、1878年7月1日であった。津川から川船を利用し、河口の港湾都市である新潟町へ3日に到着した。新潟町を9日に出発し、12日には山形県市野々に着いている。

日本海側唯一の開港場であった新潟町にバードは1週間滞在しており、新潟の都市構造、キリスト教伝道、仏教、商業、食べ物と料理など、多岐にわたることがらについて記している。これは外国人旅行者がたまたま目にした新潟という一地方都市の状況を書き留めたものではなく、明治初期の地方における西洋化の状況についての詳細な報告として構成する目的で情報を収集し、まとめたものと考えべきである。

よって新潟という一地方のみの朗読ではあるが、『完訳日本奥地紀行』として翻訳された大部の旅行記を要領よく抜き出したまとまりとして、とらえることが可能であろう。バードの日本の旅全体を取り扱った新書や、旅路を丹念にたどり、金坂氏自身が彼女と同じ場所に立って撮影を行った写真から構成される写真集とは異なった意味で重要な、一般向けの地理学による旅行記に関する調査・研究成果の還元のある方をブックレット付きの本CDは示しているのである。

さて、地理学の観点からも注目されるバードの記述を、より具体的な形でとらえるために配された地図類や写真に目を転じたい。

CDジャケット表面には精緻に描かれた「バードの新潟県下の旅のルートと旅程(1878年)」が掲げられており、河川交通と陸上交通の使い分けも含めて、彼女の足取りを俯瞰できる。表面には「プラントン日本図」、バード(49歳)の写真もあわせて載せられており、旅のイメージを膨らませ

ることができる。

ジャケット裏面には「第一大区新潟湊真景」「三府五港細見全図」の画像が掲載されており、開港場新潟を平面形態と等身大の景色としてとらえられるよう、構成されている。

解説書であるブックレットは、表裏の表紙を含めて16ページからなる。CDジャケットの図版の解説も含めて、バードの新潟の旅をより深く理解する上で必要な情報が盛り込まれており、ページ数に対して含まれている情報は膨大である。

その中からCDジャケット裏面の2つの図版の発行年、ブックレット所載の新潟町を撮影した古写真6枚の撮影年代が、大火で市街地の多くが焼失した1880年以前ないしは以前と推定されるものが選ばれていることに注目したい。バードは楠本正隆による新潟の都市整備に注目し詳細な記述を残しているが、写真はそのありようを正確にイメージする上で極めて重要である。

金坂氏は、「過去の旅行記に描かれた旅を私たちの旅に取り込み、2つの旅の時空を主体的に重ね合わせる旅」＝「ツイン・タイム・トラベル」を普及させ、「旅を通しての異文化交流・国際交流にも役立つ」ことを主張する。その「ツイン・タイム・トラベル」を実現する上で旅が行われた時点の状況を想起する上でできる限り齟齬の少ない資料を注意深く提示することが重要であり、その考えに基づいて古写真や地図類の選択が徹底されているのである。

さらに阿賀野川の溪谷美をライン川やスコットランドのキランに比して賞しているバードの言葉を、より玩味するために金坂氏は2018年にキランに赴き、比較のための写真を撮影してブックレットに掲載している。これはツイン・タイム・トラベルという2つの旅の時空を重ねると同時に、バードの経験に基づいてキランと阿賀野川という2つの場所も重ねて読者に読み取ることを提示している意味でも興味深い。

なお、ブックレット付きの本CDは非売品であるが、希望の場合、(一財)地図情報センター(Tel.03-3262-1486, E-Mail: info@chizujoho.jp.org)に問合せることで入手可能である。多くの地理学者を含めた人々に聴き、見ていただきたい。

(堀 健彦)